

## 日本総合歯科学会雑誌・11巻発刊に際して

日本総合歯科学会  
理事長 鳥井康弘

本年4月より、第4代目理事長を拝命致しました岡山大学の鳥井康弘です。初代理事長の小川哲次先生、2代目理事長の樋口勝規先生、そして3代目理事長の伊藤孝訓先生の後を継ぎ、この日本総合歯科学会をさらに発展させるべく、微力ではありますが努力していく所存ですので、会員の皆様におかれましては何卒、ご協力とご支援を賜りますようお願い致します。

まずは、本学会誌11巻が発刊となり、編集査読委員会の井上哲委員長をはじめとする委員の皆様には厚く御礼申し上げます。学会活動の中でも、雑誌発刊は大変重要な活動の一つであり、本学会の活動内容・情報の社会への発信と言えます。会員の皆様におかれましては、多数のご投稿をお願いいたします。

本学会は、2008年に総合歯科協議会として設立され、2011年に日本総合歯科協議会と改称し、さらに、2013年に日本総合歯科学会として学会組織に移行しました。設立からすでに10年が過ぎましたが、まだまだ発展途上であることは否めません。そこで、学会活動をより活性化させるため、2015年から認定医制度を運用してきましたが、2019年5月には、学術委員会・教育検討委員会を中心となって、安心安全な全人的歯科医療の提供、地域志向アプローチの実践、様々な診療の場での継続的な包括的歯科医療アプローチの実践、多職種との協働による口腔の治療とケアの実践およびプロフェッショナルリズムの実践という5つのコンピテンスとさらに詳細な18のコンピテンシーを取りまとめて、「日本総合歯科学会認定総合歯科医研修カリキュラム」を作成しました。学会ホームページに掲載しておりますので、会員の皆様方にはご参照いただき、ぜひ認定医取得を目指していただきたいと思っております。

さらに、今まで任意団体であった本学会を、社会的に広く認知され使命を果たすことを目的に、昨年度の総会において法人化のための準備を開始することが承認され、現在、一般社団法人格を取得するべく準備を行っているところです。このことによって、さらに本

学会が一段階、発展することを目指しています。

本学会は、会則にも記載されているように包括的総合歯科医療に関する研究・教育の進歩・発展を期し、併せて総合歯科医療、口腔プライマリケアの向上に寄与することを目的として設立されました。歯科医療、歯科医学の歴史では、正式な教育機関の設立は約180年前の米国にさかのぼります。我が国においては明治期に歯科医学校が初めて開校され、専門的な教育がなされてきました。その後、2世紀弱の歴史の中で、歯科医療・歯科医学は多数の専門領域に細分化し、それぞれの領域でサイエンスとしての学問を発展させ、教育、臨床へと活用することでそれぞれが単独または協働して歯科医療をここまで大きく発展させてきたことは言うまでもありません。そのような中で、ついこの前とも言うべき11年前に本会が設立されたわけですが、その経緯は、大学歯学部および附属の病院に総合歯科医療の教育、研究、臨床を担う部署が設置されるにつれ、初代理事長の小川哲次先生が中心となって、既存の専門細分化された学会とは異なる組織を立ち上げ、包括的（総合的な）な歯科医療・歯科医学の研究・教育を確立し、それらをベースとして歯科医療をさらに発展させるためには、次世代の後継者育成をも目指して幅広く活動することが必要と考えたためでした。本会の設立母体となったのは、大学歯学部および病院の総合歯科を担う部署であったので、現時点では大学関係者が中心となって活動していますが、本学会が目指す歯科医療の発展には地域歯科医療の担い手である学外の方々のご協力が無くしてはできないことは言うまでもありません。そのため、学外の方にも数多く入会していただき、本会の目的である包括的な歯科医療をそれに関する研究で得られたサイエンスに基づいた学問とし、臨床を発展させ、教育を推進していく必要があると考えております。皆様におかれましては、ぜひ、趣旨をご理解いただき、設立10年を超えた日本総合歯科学会のさらなる発展の推進にご協力賜りますようお願い申し上げます。

